

ダイヤデータの構造は以下の様になっています。

基本編成, 行程, 種別, 前駅発時刻, 田牛駅発時刻

使用できる文字はすべて半角の数字・空白・カンマだけです。1行ずつ改行してください。

各項目間は必ず1つのカンマで区切ってください、カンマは省略できません。

最大列車数は50行までです（最終データ込み51行まで）。最終データは必須です。

データ名は、半角・全角可、拡張子は.txtとして下さい。

基本編成の前後には空白文字は付けないで下さい。

各項目の説明をします

項目名	指定文字	説明
基本編成	2～7 9	列車を走らせるためのベースです。 2～7の6編成を使って列車を走らせます。 この基本編成はアプリ上では同時に2つの場所に存在することは出来ません。つまり同時にレイアウト上に存在できる列車は6編成までという事になります。 詳しくは後ほど説明します。 9：最終データを表しますデータの最終行には必ず指定してください。
行程	1～8	列車の起点駅・終点駅・上り下りを表します。 1：本線 → 田牛 → 本線 2：本線 → 田牛 → 寿亀線 3：寿亀線 → 田牛 → 本線 4：寿亀線 → 田牛 → 寿亀線 5：始発 田牛 → 本線 6：始発 田牛 → 寿亀線 7：本線 → 田牛 終着 8：寿亀線 → 田牛 終着 行程5・6（田牛始発）に使用できる基本編成は、3・4のみです。

項目名	指定文字	説明
種別	1～7 9 11～17 19 21～27 29	<p>この項目で列車種別及び車両画像を指定します。</p> <p>下1桁</p> <p>1：特急 383系 2：快速 185系 3：普通 165系 4：普通 115系 5：普通 E233青帯 6：普通 313系4連 7：普通 313系2+2連 9：急行 C11+観光客車</p> <p>10番台は行程前半が回送、 20番台は行程後半が回送となります。</p> <p>例) 行程1、種別11は 犬淵公園→田牛 特急 (回送) 田牛→犬淵公園 特急 となります。</p> <p>注意 SL列車は行程5、6、7、8には使えません。 SL列車は基本編成2のみ使用できます。</p> <p>回送と営業列車の違いは、列車案内盤での表示とダイヤでの回送表示です。</p>
前駅発時刻	0～59	<p>行程1・2・7の場合、犬淵公園駅発車時刻 行程3・4・8の場合、鮎沢駅発車時刻 始発系行程5・6は0としてください</p> <p>各駅の発時刻 (分単位) です、時は省略します。</p> <p>重要 各行は前駅発時刻の昇順に並べてください。</p>

項目名	指定文字	説明
田牛駅発車時刻	0～59	<p>田牛駅発車時刻を指定します。</p> <p>到着時刻は不要です、今回の田牛駅では駅間の運転時間は各2分となっていますので、前駅の出発時刻から自動的に算出しています。</p> <p>折返し列車の最低停車時間は2分です。2分以上の停車時間を取って下さい。</p> <p>S L列車の場合、機回りのため停車時間は6分以上とって下さい。</p> <p>終着系行程7・8は0としてください</p>

基本編成の再利用

同一基本編成は同時に複数存在できません。犬淵公園着の編成を鮎沢から出発させても時間さえ重なっていなければ問題ありません。

同じ基本編成を使った場合、影響が有るのはイベントモードなどで前列車の到着が次列車の出発時間より遅延した場合、次列車の出発は前列車が到着した後になります。

同一基本編成を再利用する場合は最低2分程度の間隔をあけてください。

この基本編成重複チェックはアプリでは行っていませんのでご注意ください。

両端駅の出発間隔

両端の駅を出発する列車は2分以上間隔を開けてください。

両端駅から田牛駅の場内信号までには1閉塞区間しかありませんので最低2分の間隔を開けてください。田牛駅出発は1分間隔で続行できます。

折返しりに掛かる時間

電車は折返し時間を**2分以上**とってください。

S L列車の折返しには、**6分以上**必要です。

データの並び順

各行は**前駅発時刻が昇順**になる様に順序を確認して記述してください。

出発時刻にかかわらず**始発列車はデータの先頭**に記述してください。

基本編成・行程・列車種別の禁忌

S L列車は、基本編成2のみ指定できます。

S L列車は、始発・終着運用（5，6，7，8）には使えません。

始発運用は、基本編成3、4のみ使用できます。（初期位置 3：F地点 4：G地点）

ユーザーデータ作成方法、読み込み操作方法につきましては、[鱒原駅ユーザーデータ作成マニュアル](#)をご参照ください。